



杉田地区 美空ひばりが巣立った旧杉田劇場

日本飛行機の下請け会社を営んでいた高田菊弥が昭和21年1月、市電終点近くに杉田劇場をオープンしました。娯楽に飢えた時代ゆえ、劇場付きの劇団「大高ヨシロー座」が人気を博し、観客を運んだ京急と市電は大増収だったといえます。そんな劇場へ売り込みにやってきたのが、加藤和枝（のちの美空ひばり）とその母親。和枝は当初、休憩時間に幕の前で歌っていましたが、杉田劇場を支援していた芸能界の実力者、鈴木義二のひと声で彼女は美空一枝という芸名をもらい舞台に立つようになりました。以後の活躍は皆さまご承知のとおりですが、やがて劇場は閉鎖、代わって登場したのが映画館です。昭和23年、京急杉田駅前に「東洋劇場」がオープン。昭和26年には、主演した映画『悲しき口笛』のスクリーンの中から、美空ひばりが杉田に帰ってきたのです。

昭和30年代、杉田にはもう一軒の映画館がありました。「杉田東映」です。そこには今、パチンコ店が建っています。



旧杉田劇場で葡萄座が上演した『ヴォルガ放牧所』（昭和23年）



杉田商店街入り口にあった「杉田東映」（昭和30年代）

美味しい地域情報

隠れ家レストラン「クックハウス」(杉田1-5-23)

信号「新杉田駅西側」から極細路地を杉田小学校方面に入った住宅街にある半地下の店。分りにくい場所だが、いつも常連客でにぎわっている。おすすめは、鉄板の上でジュージューと音を立てて運ばれてくる黒毛和牛ハンバーグ。肉はナイフがいらぬほどやわらか。付け合わせのジャガイモも美味しい♪ 営業時間は 11:45 ~ 15:00。



滝頭地区

サーカス興行地のあとにできた「映画座」

戦前、日本の三大サーカスの一つに宇佐美サーカスというのがありました。巡業は平塚、小田原から始まり全国を回って1年後に横浜に戻り、根岸橋の脇で興行していました。戦後はサーカスの人気が下火となり、経営者の宇佐美さんは昭和27年、興行していた跡地に「映画座」をオープンさせました。昭和30年代は映画が全盛の時代でいつも満席。立ち見のお客さんも多かったといえます。鞍馬天狗が馬に乗って登場すると、客席からは大きな拍手が沸いたものです。

昭和29年の暮れ、「映画座」の1街区隣に「根岸シネマ」が開館しました。岩瀬商店街の客寄せも兼ねて始まったのですが、やがてテレビの急激な普及のあおりで、昭和35年5月に閉館。映画館の近くには美空ひばり一家が住んだ2番目の家がありました。このあと、彼女が16歳のとき、磯子台に「ひばり御殿」を建てています。(参考：『浜海道』『浜海道II』磯子区役所発行)



昭和30年代の「根岸シネマ」



昭和30年代の滝頭町内



根岸地区

根岸発パラオ行き

飛行艇が活躍した映画『南海の花束』

戦前・戦中の根岸湾は飛行艇が発着する滑走路の役割を担っていました。堀割川河口の埋立地には大日本航空の格納庫やターミナルビルがあり、ここからパラオ行きの飛行艇が飛び立っていたのです。10時間かけてサイパンまで行きそこで1泊。翌日はさらに7時間も飛んでパラオに到着という長時間飛行。この路線を利用していたのは南洋庁の役人、南洋興発の社員、そして軍人たちでした。

昭和16年に封切られた映画に大日方伝、杉村春子らが出演した「南海の花束」というのがあります。南洋航路開拓のため民間航空会社の南洋支所に配備された飛行艇が活躍する映画でした。第1回目の開拓飛行では台風に遭遇し遭難してしまいます。2回目の開拓飛行では、遭難した操縦士の妻から預かったパイプを花束とともに投げ落とすシーンが印象的でした。この撮影は根岸湾と大日本航空の飛行艇を使用して行われました。跡地には根岸中学校や JXTG エネルギーの製油所が建っています。(参考：Wikipedia と『浜海道』『浜海道II』磯子区役所発行)



飛行艇の大格納庫



飛行艇紹介の雑誌記事

美味しい地域情報

「不二屋牛肉店」(原町3-19)

八幡橋から根岸方面に向かって進むと、左側に昭和レトロ感満載の「不二屋牛肉店」が現れる。昼時は、「お弁当」「コロッケ」と染め抜かれた幟の周辺に多くの客が並ぶ。彼らのお目当ては精肉ではなく30種以上もあるお弁当だ。最多価格帯は嬉しい500円から600円。しかも注文してから揚げるのでアツアツで美味しい。メンチがおすすめ♪



美味しい地域情報

中華料理「平和楼」(丸山2-10-11)

馬場町から根岸橋を渡ると、そこは昭和の雰囲気が残る丸山町である。商店街の中には、美空ひばりの父親が営んでいた「魚増」が今でもある。そんな町で中華そばと書かれた懐かしい暖簾を掲げているのが「平和楼」だ。磯子の逸品に選ばれているタンメンは、塩味のスープに野菜のエキスが溶け込み、頬が落ちるほど旨い♪

